

資料4

岡崎地域活性化ビジョン検討委員会(第1回) 参考資料 《歴史から見た岡崎》

①明治・大正期	2
②昭和初期	10
③昭和30年代	11
④昭和60年代以降	12
(参考1)近代以降の岡崎地域の変遷	13
(参考2)平安時代の岡崎地域	15

歴史的な写真の出典

「琵琶湖疏水の100年」「京都市動物園100年のあゆみ」「京都市政史第1巻」「写真でみる京都100年」「京都百年パノラマ館」「京都学
前衛都市・モダニズムの京都展1895-1930」「近代京都の名建築」「平安神宮百年史」「前川國男作品集—建築の方法」

①明治・大正期 ～京都の近代化を牽引した岡崎地域～



図：琵琶湖疏水のルート



第1疏水工事の様子



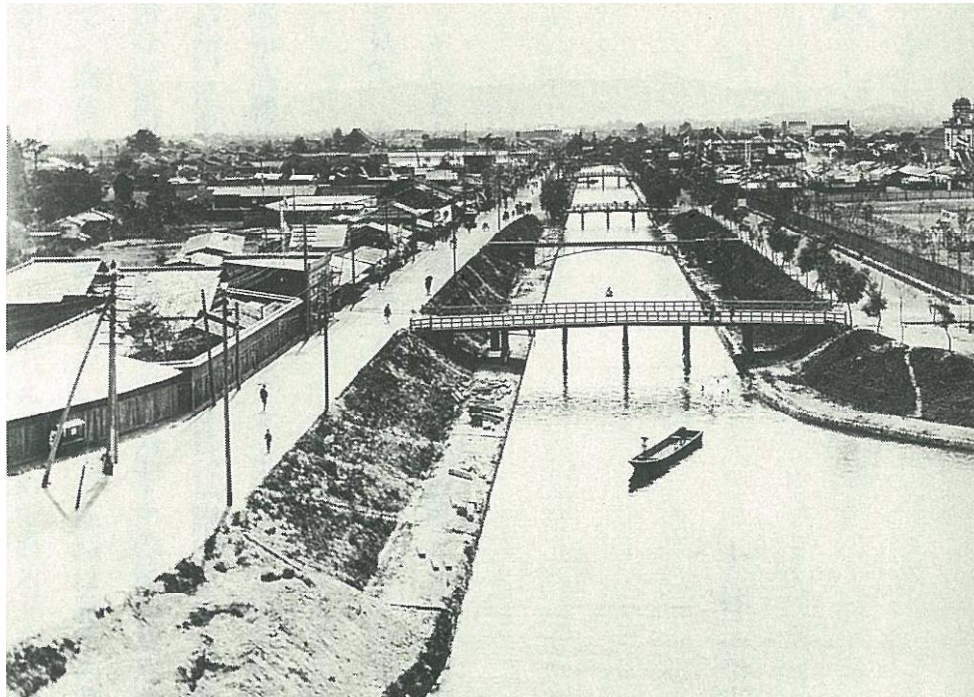
第1疏水竣工式場

○琵琶湖疏水の開削

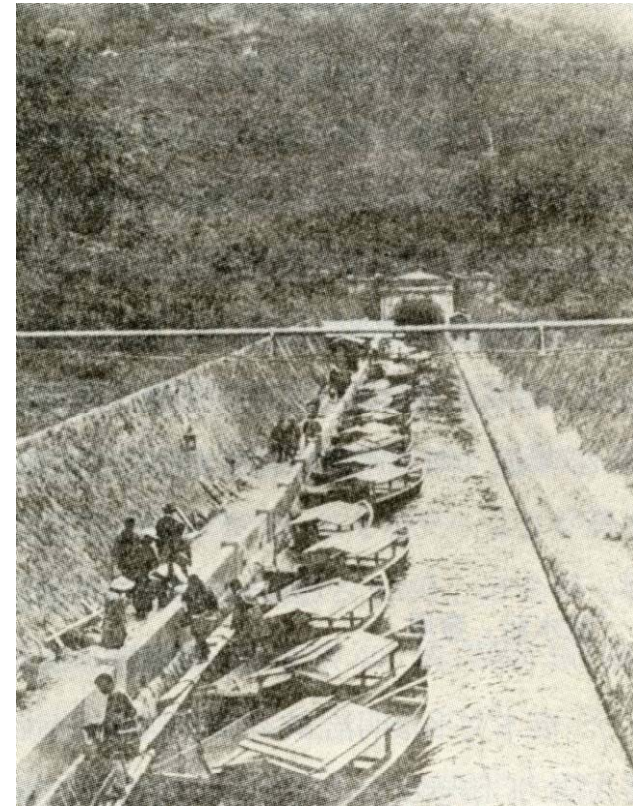
- ▶ 明治23年[1890]に第1疏水が竣工。水力発電による電力や水運、灌漑用水を提供し、京都の近代化の礎を築いた。
- ▶ 第1疏水の開削に伴い、鴨川以東の新市街開発が進められた。
- ▶ 電力供給の増強と上水道布設を目的とした第2疏水が明治45年[1912]に竣工。第2疏水の開削は、京都市の都市改造を行う三大事業として実施。

三大事業の内訳：

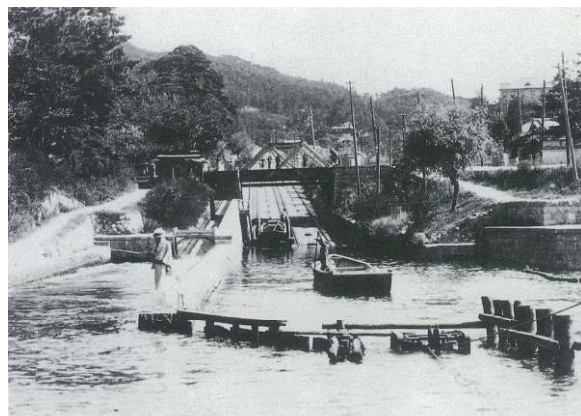
第2疏水開削，上水道整備，道路拡幅および市電敷設



第4回内国勧業博覧会開催時の鴨東運河(明治28年[1895])



疏水下りで活躍した疏水屋形船
(大正9年[1920])

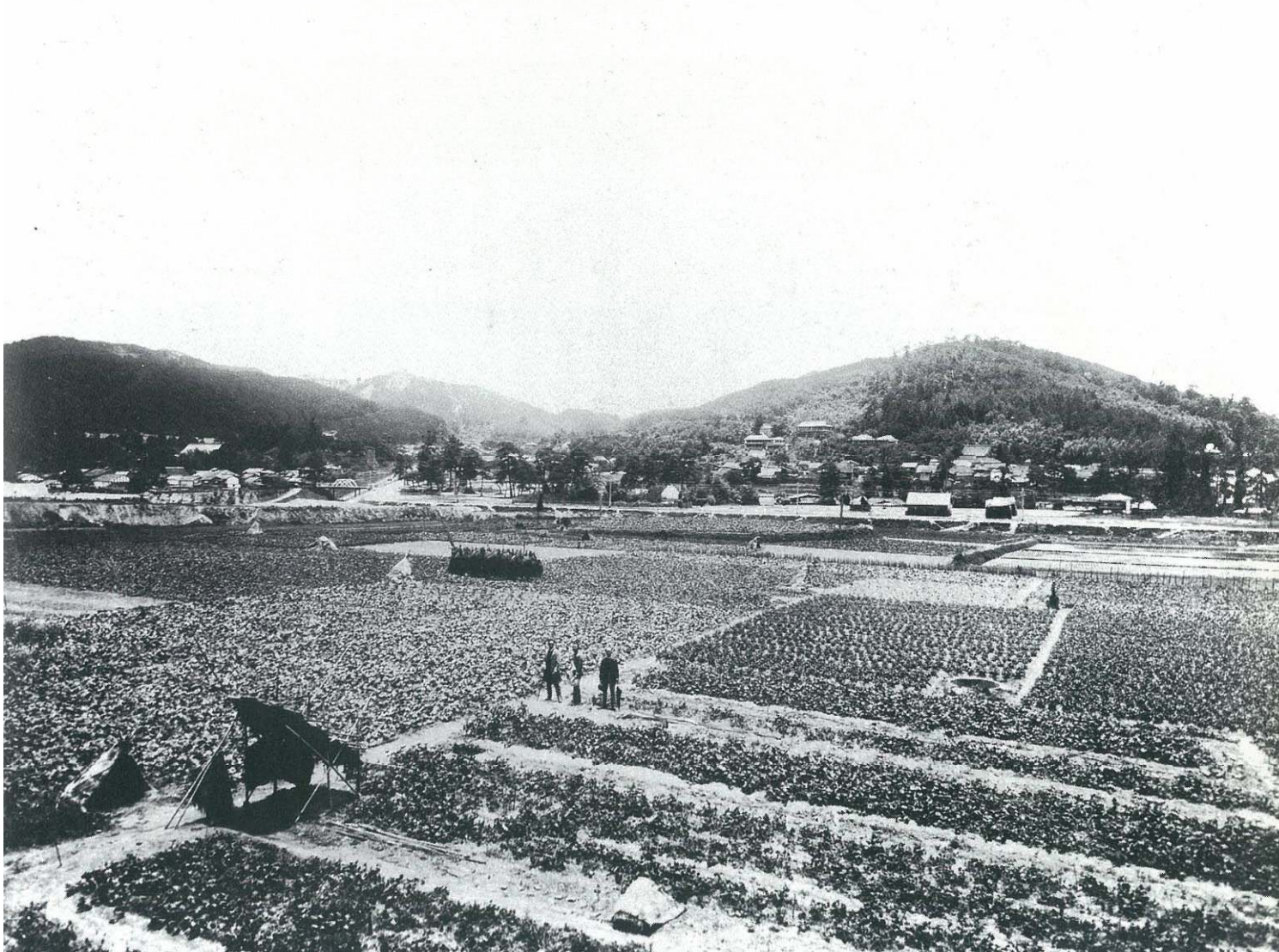


インクライン (大正期)



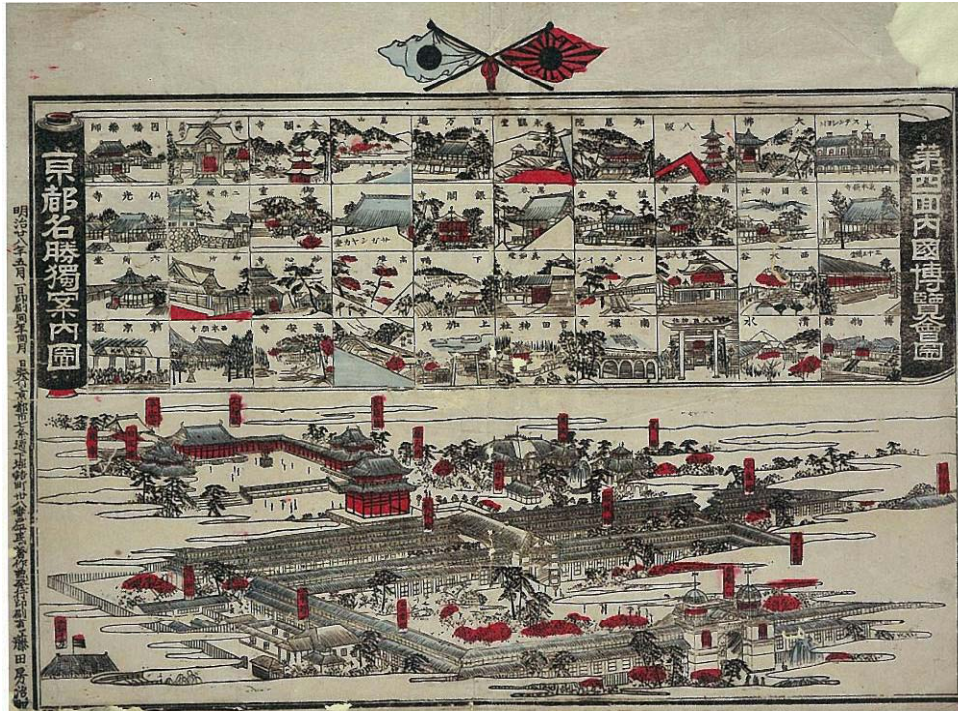
疏水舟だまり風景(蹴上) (明治25年[1892]頃)

内国勧業博覧会開催前の岡崎地域の様子



明治26年[1893]頃の岡崎地域 現在の平安神宮のあたりから南禅寺と都ホテル方面を望む

○第4回内国勧業博覧会と平安遷都1100年記念祭の開催 (明治28年[1895])



内国勧業博覧会図付京都名勝独案内図

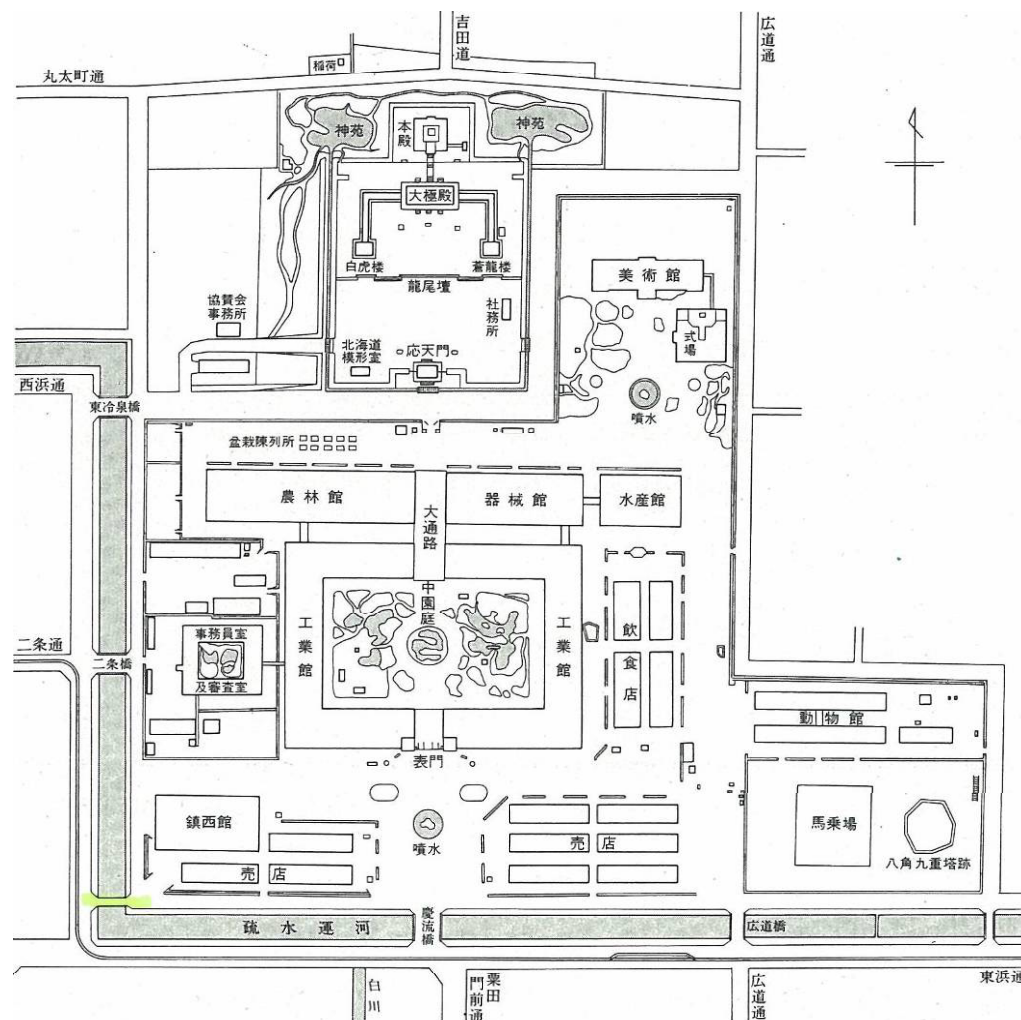


第4回内国勧業博覧会の会場門

内国勧業博覧会は、明治時代に計5回開催されています。
ちなみに、第1回から第3回は東京の上野公園で、第5回は大阪の天王寺公園と堺で開催されています。

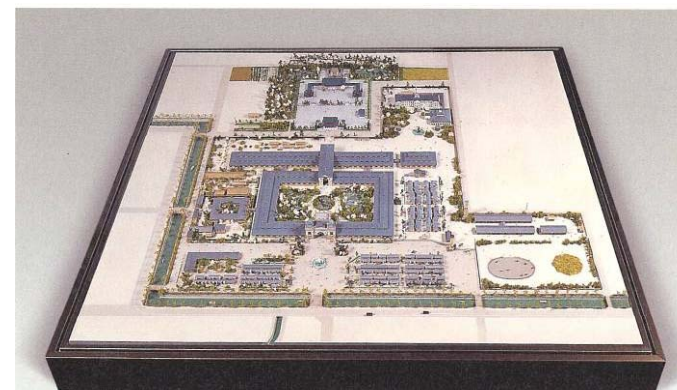
- ▶ 内国勧業博覧会は産業や技芸の発展に主眼をおいた政府主催の博覧会で、当時の一大イベントでした。
- ▶ 京都は、平安遷都1100年記念祭と第4回内国勧業博覧会の同時開催を計画し、内国勧業博覧会の誘致に成功しました。

○第4回内国勧業博覧会の概要



第4回内国勧業博覧会(明治28年[1895])の会場図

- ▶ 博覧会会場には、平安遷都1100年記念祭の象徴として平安神宮が創建され、美術館や工芸館、工業館や器械館、農林館、水産館などのパビリオンが設けられました。
- ▶ 博覧会にあわせて、疏水による電力を用いた路面電車が、伏見や京都駅から会場まで敷設されました。



第4回内国勧業博覧会の会場模型

○平安遷都1100年記念祭の概要



平安神宮地鎮祭の余興
(明治26年[1893])



創建時の平安神宮(明治28年[1895])



第1回時代祭に参集の人々
(明治28年[1895]10月22日)

- ▶ 明治維新以降、京都は殖産興業を推進し、工業都市としての振興を探る一方で、圧倒的な文化度を持つ都市を前面に出す方策を打ち出します。平安遷都1100年記念祭はその最大イベントで、京都復興をかけた一大事業でした。
- ▶ 平安遷都1100年記念祭は、京都市が主催した事業で、記念祭場として平安神宮が創建されました。
- ▶ 記念祭の余興として時代行列が企画され、評判になりました。以後、この行例は時代祭と呼ばれ、毎年行われるようになりました。

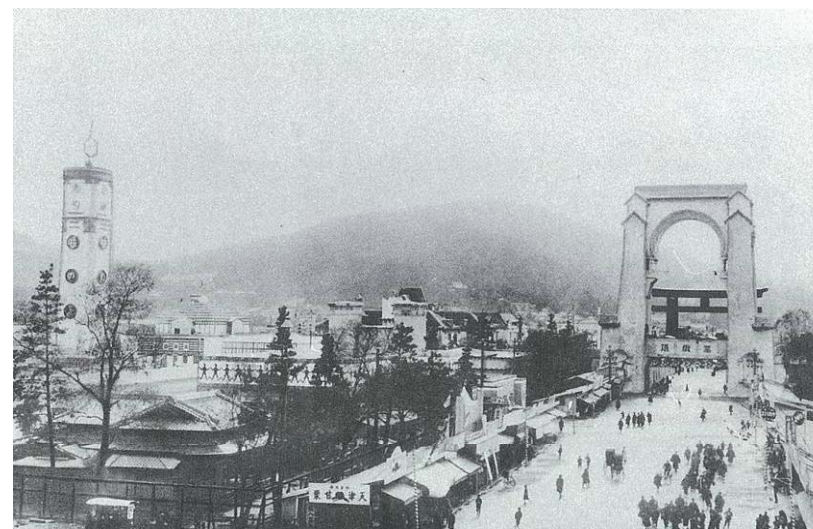
○内国勧業博覧会后，岡崎地域は京都市の博覧会場として定着



大典記念京都博覧会の様子(大正4年[1915])

大典記念京都博覧会（大正4年[1915]）

- ・ 京都市が主催した大正天皇の即位を奉祝する博覧会で，会場は岡崎公園でした。
- ・ 会期は10月10日から12月19日で，入場者数は86万人に達しました。

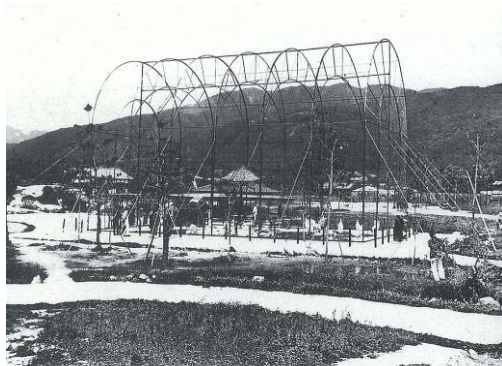


大礼記念京都博覧会の様子(昭和3年[1928])

大礼記念京都博覧会（昭和3年[1928]）

- ・ 京都市が主催した昭和天皇の即位の大礼奉祝の記念博で，会場は岡崎公園と千本丸太町の刑務所跡地，東山七条の博物館の3会場でした。
- ・ 会期は9月20日から12月25日で，入場者数は311万人に達しました。

○岡崎文化ゾーンの形成(明治後半～大正)



京都市動物園の大鳥籠



旧京都府立図書館



第二勧業館

明治32年[1899] 武徳殿の建設。

明治36年[1903] 京都市動物園の開園。

(当初は京都市記念動物園)

明治37年[1904] 岡崎公園の開設。(内国勧業博覧会跡地)

明治42年[1909] 京都府立図書館の開館。

明治44年[1911] 京都市第一勧業館の開館。

(市美術館建設の際に撤去された)

大正2年[1913] 第二勧業館北館の開館

大正4年[1915] 第二勧業館南館, 岡崎グラウンドの開設。

大正6年[1917] 岡崎公会堂の開館。

(昭和9年の室戸台風で倒壊)

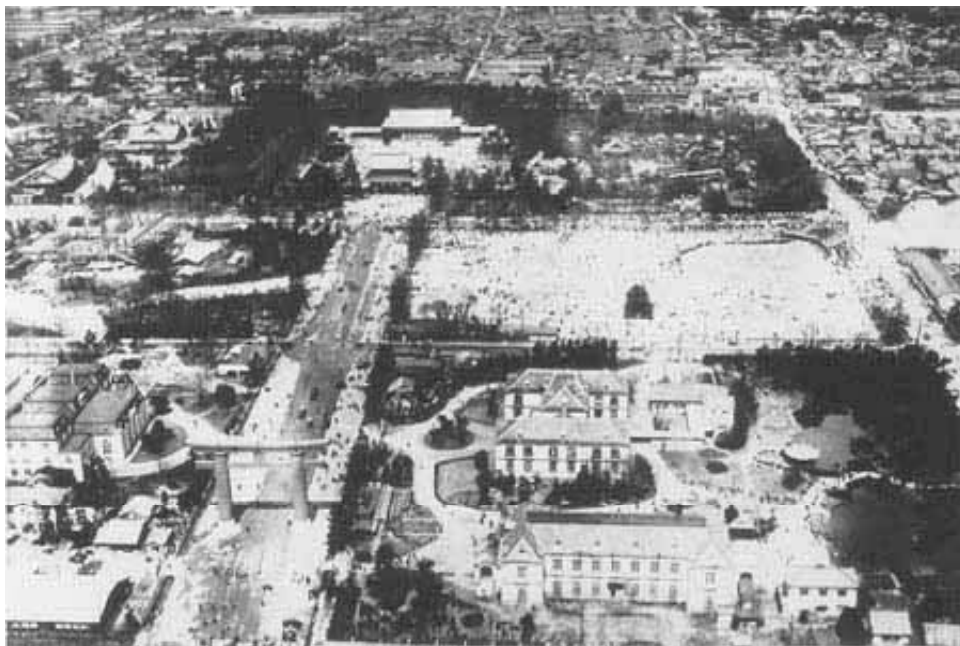


大正期の岡崎グラウンド
利用風景



岡崎公会堂

②昭和初期



昭和5年頃の平安神宮周辺

昭和4年[1929] 大鳥居を設置。

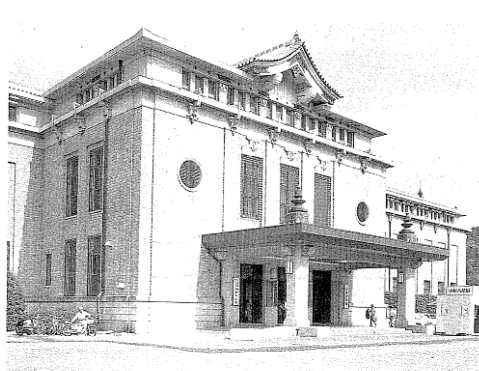
昭和5年[1930] 京都市公会堂東館の開館(現在の市美術館別館)。

昭和8年[1933] 国内で2番目の美術館として、京都市美術館が開館。(当初は大礼記念美術館)

昭和12年[1937] 昭和9年[1934]の室戸台風で倒壊した第二勧業館の再建。



市公会堂東館(昭和5年[1930])



京都市美術館(昭和8年[1933])



インクライン沿いをはしる市電

③昭和30年代



昭和35年[1960] 京都会館の開館。

昭和38年[1963] 国への誘致活動が実を結び、
京都国立近代美術館が開館(勧業館別館
の1・2階を改修)。

勧業館別館を改修利用
(場所は現在と同じ)



京都国立近代美術館の開館
(昭和38年[1963])

④昭和60年代以降 ～文化交流ゾーンの機能更新の実施～



京都国立近代美術館



本館

旧武徳殿



京都市武道センター



京都市
国際交流
会館



みやこめっせ

琵琶湖疏水記念館



建替え後の府立図書館



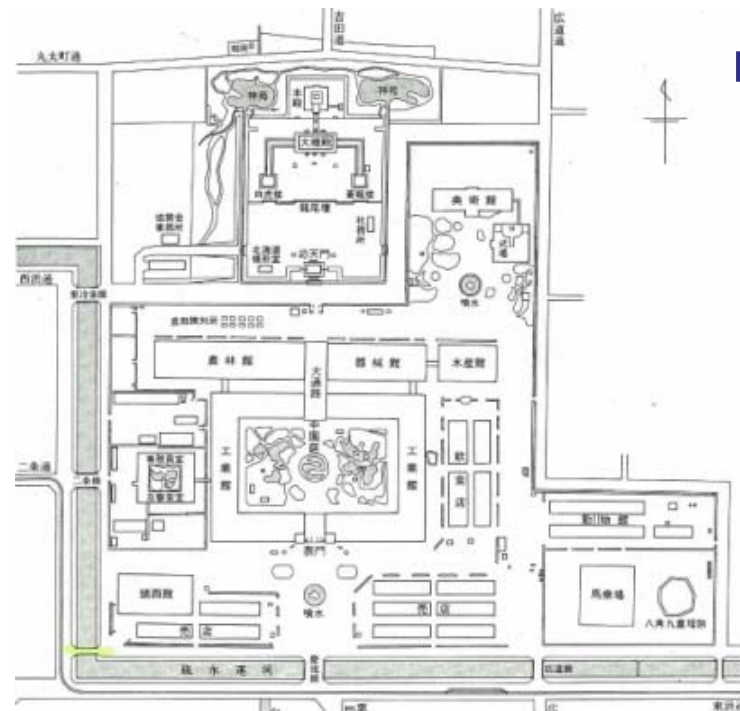
- ▶ 昭和61年[1986] 京都国立近代美術館の建替え。
- ▶ 昭和62年[1987] 京都市武道センターの完成。(我が国最古の演武場である武徳殿を改修再生)。
- ▶ 平成元年[1989] 琵琶湖疏水記念館と京都市国際交流会館の開館。
- ▶ 平成7年[1994] 岡崎グラウンド(野球場)と岡崎公園地下駐車場の開設。
- ▶ 平成8年[1996] 第二勧業館を建替えたみやこめっせの開館。
- ▶ 平成12年[2000] 市公会堂東館を改修した市美術館別館の開館。
- ▶ 平成13年[2001] 旧館を建替えた京都府立図書館の開館



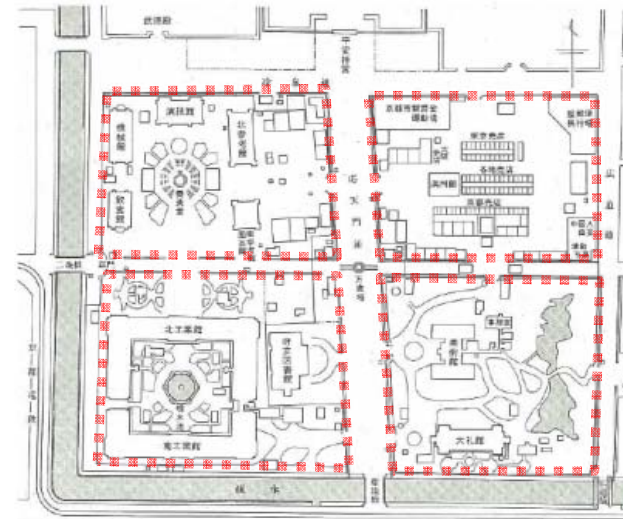
市美術館
別館

(参考1)近代以降の岡崎地域の変遷

○その1 明治～昭和初期



①第4回内国勧業博覧会 【明治28年(1895年)】



②大典記念京都博覧会 【大正4年(1915年)】



③大札記念京都博覧会【昭和3年(1928年)】



大きな変化があった箇所

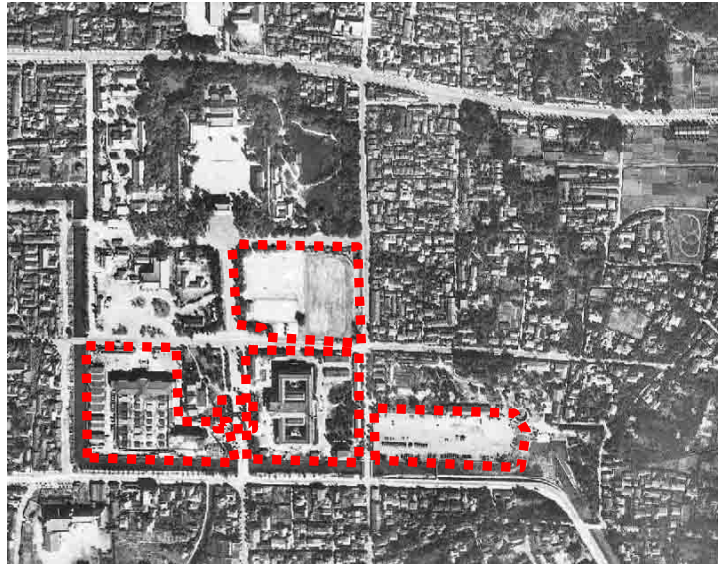
・地域中央に十字の通りができ、土地が大きく4分割されている(現在の形に近い)。

・新しい展示施設が建設される。
(左上：岡崎公会堂も特別余興館として使用。)
・現在の神宮道沿いにも様々な仮設物が見られる。

○その2 昭和20年代～現在

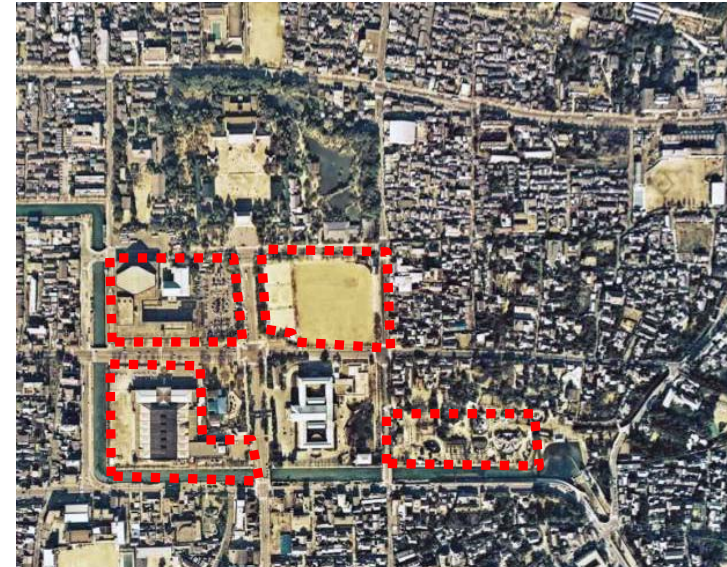


大きな変化があった箇所



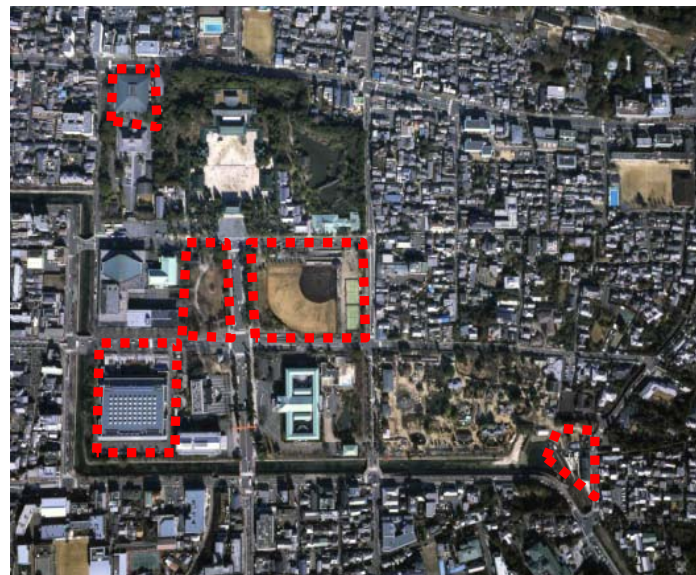
④航空写真【昭和21年(1946年)】

- ・ 現在も残る大鳥居，公会堂東館（現美術館別館），市美術館などが見られる。
- ・ 動物園南側は米軍に接收された姿。



⑤航空写真【昭和49年(1974年)】

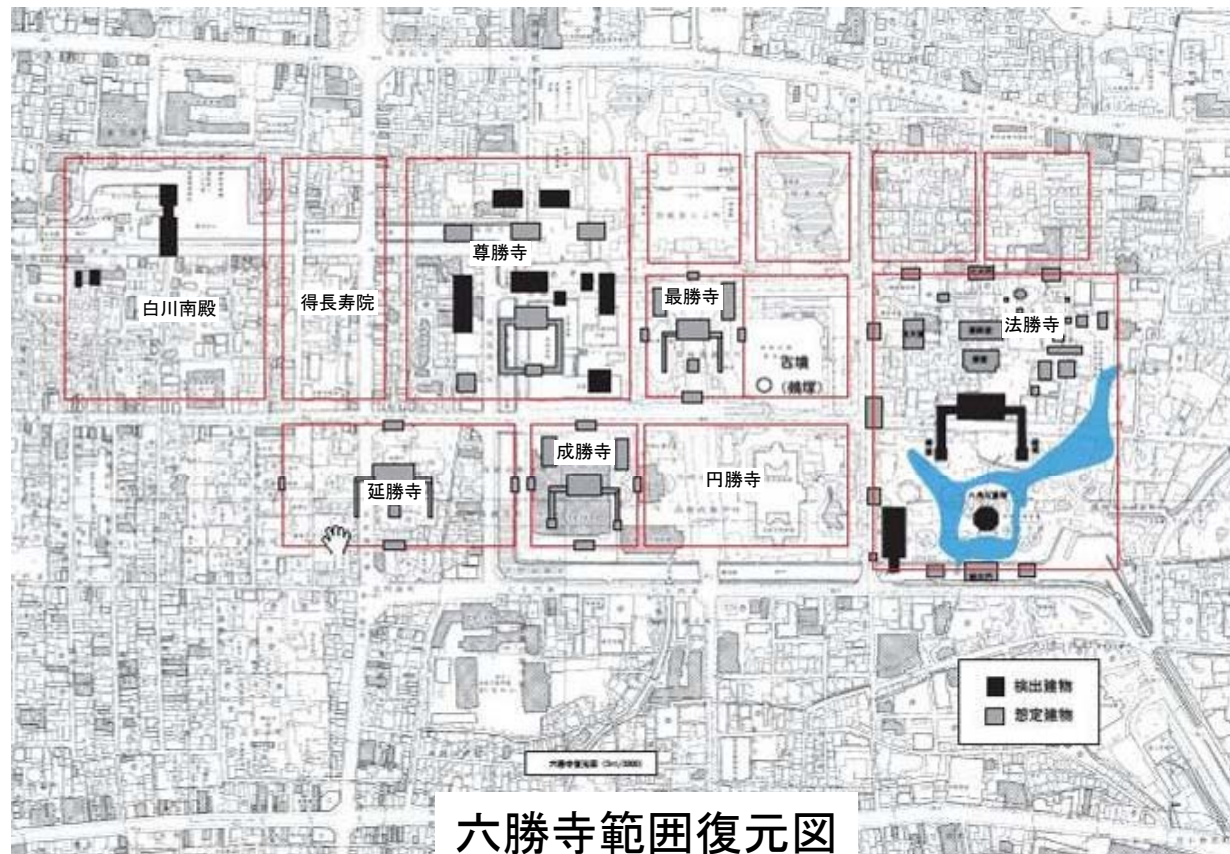
- ・ 京都会館も完成。
- ・ その東側は駐車場として利用されていた。



⑥航空写真【平成21年(2009年)】

- ・ 現在の姿

(参考2) 平安時代の岡崎地域



六勝寺範囲復元図

(京都市文化財保護課作成)

六勝寺：法勝寺・尊勝寺・最勝寺・
円勝寺・成勝寺・延勝寺

- ▶ 白河院が院政を行った地。
- ▶ 平安末期，岡崎地域には，法勝寺をはじめとする6つの寺院（六勝寺※）の大伽藍が存在し，栄華をきわめた。



六勝寺のイメージパース

作画：梶川敏夫氏

白河院が建立した法勝寺には、白川の水が引かれ、池の中島に推定高さ80m以上の壮麗な八角九重の塔が建っていた。今年度、動物園内でその基礎が発掘され、ほぼ全容が明らかになった。

法勝寺・八角九重塔基礎

東寺五重塔上回る面積

石、粘土で地盤補強

平安時代後期に白河天皇が建立し、高さ81mを誇った法勝寺の八角九重塔跡（京都市左京区岡崎）の発掘調査で、塔の基礎の全容が23日までに判明した。基礎部分の面積が843平方mに達し、東寺五重塔（高さ54m、335平方m）を大きく上回る規模だった。

市動物園の改装工事に伴い、市埋蔵文化財研究所が5月から380平方mを調査した。八角形の建物基礎のうち南側を中心に5カ所のコーナーを検出。一辺は12・5×14・5mあり、東西幅は32m

法勝寺の八角九重塔の基礎部分（青色テープ右側）。巨大な石で地盤改良が行われていたことが分かる（23日、京都市左京区・市動物園）＝撮影・辰巳直史

だった。

基礎は地面を1・5m掘り下げ、石と粘土を交互に突き固める手法で地盤改良され、通常使われるこぶし大の石でなく、直径40〜70cmもある石が使われていた。また一度焼失し、1213（建保元）年の再建時に、基礎をさらに補強したとみられる地盤改良部分も見つかった。

このほか九重塔を示す

すとみられる「九」の文字がある瓦や、塔にまつられていた大日如来を示す梵字がある瓦が出土した。

京都産業大の鈴木久男教授（歴史考古学）は「もともと地盤は砂地で、かなりの難工事だったはず。80mもの

塔を建てるだけの確かな土木技術があったことを示す貴重な成果だ」としている。

現地説明会は26日午前10時から。動物園入園料が必要。問い合わせは現地事務所携帯電話090（8201）3402。（江藤均）

法勝寺・八角九重塔発掘の記事
（平成22年6月24日 京都新聞）

○「岡崎」の地名の由来

「神楽岡（吉田山）や栗原岡（黒谷）の南に位置し、その山際が迫っていることに由来するという」（京都の地名由来辞典より）。

13世紀末に編集されたとされる歴史書「百鍊抄^{ひやくれんしょう}※」の中に「岡崎」の地名が現れていた。（日本歴史地名体系27・京都市の地名より）

※13世紀末鎌倉時代後期に、公家の日記を抜粋編集した歴史書。編者不明。